3つのひかり　未来をつくる
広島市立大学
Hiroshima City University

【　まなざしに共鳴する染織造形】

【　研究キーワード　】　染織造形、現代織物、ファイバー・アート、綴織、タピスリー、染織、繊維、織物、感覚をひらく

芸術学部デザイン工芸学科
芸術学研究科造形芸術専攻・総合造形芸術専攻

准教授　野田睦美　Noda Mutsumi

研究シーズの概要

日本の染織は、その独特な美意識によって世界から注目されています。その原点にある美術織物の綴織は、テーマ、構成、色彩、素材、染色技術、織技術が融合した芸術とされます。繊維には、柔軟性があり軽く温もりがあるといった特質に加えて、微粒子の染料が繊維に染み込み発色することで現れる豊かな光彩があります。本研究では、日本の伝統的な染めと織りの技術を基に、日本で製作されている素材と独自の染織技術と光を融合させ、手による感覚を大切にしたデザイン、糸の開発、染色、製織、作品設置までを一貫して行った新しい染織造形を制作しております。

研究シーズの詳細

◆研究例◆

●染織作品の発表として、ファイバーアートの 15 人展（京都文化博物館)、新匠工芸会展（東京都美術館、京都市美術館）、京都工芸美術作家協会展（京都府立文化芸術会館）などで毎年及び隔年で作品展示を行っております。

●リハビリテーションの一環として、またホスピタルアートとして、手で触って自由に変形し遊べる染織作品を制作し、病院や特別養護老人ホームにおいて作品設置を行っております。

●京都国立近代美術館「京都の染織 1960 年代から今日まで」展の関連プログラム「手だけが知っている美術館第 2 回染織」（感覚をひらく-新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業・文化庁事業)において、綴織の講義の後、視覚に障害のある方あるいはアイマスクをした方に染織作品を手で触れて鑑賞していただき、大きさや形、素材、色などについて想像を膨らませていただきました。視覚による鑑賞とは異なり、質感と技法による魅力を直接体感できます。また、アルパカによる質感と色を感じる手織のショートマフラーも制作していただきました。

●京都国立近代美術館において、目で見ることだけによらない新しい美術鑑賞のあり方を探るプロジェクトのために鑑賞教材作品を受注制作いたしました。

●はつかいち美術ギャラリー「工の環」展のワークショップにおいて、織物メーカーや縫製業者から大量に出る産業廃棄物である生地耳を利用し、ご家族や知人で意見交換しながらク、リスマスオーナメントして想像の動物を制作していただきました。

●ゴブラン織りタピスリーの会会長として日本とフランスのタピスリ-の普及活動をしております。パリ市立工房竪機タピスリー上級技術特別研修招聘では、世界遺産のモン・サン・ミシェル修道院、ヴェズレーのサント・マリア・マドレーヌ・バジリカ聖堂の施設において「平和」をテーマとした滞在制作を行いました。

想定される用途・応用例

◆住宅、企業施設、商業施設において、企業理念、家族構成など多様なイメージを表現した染織作品の制作、設置。
◆染織作品及びワークショップを通して国籍、性別、年齢を問わない様々なコミュニケーションへの波及。
◆染織作品を通してのリハビリテーション。

セールスポイント

染織は古来より人々にとって最も身近なものであり、生活を豊かにするものとして、体や住居空間を快適に華やかに彩ってきました。近年は、軽量化による低燃費化が実現し車輌や建築の材料としても利用されています。繊維の可能性は今後ますます広がり、染織の重要性も増すと考えております。生活環境の中に本研究の染織作品を置くことは、繊維の特質や糸の光彩が季節や時刻によって変化していく様子を日常的に体感することでもあります。

問い合わせ先：広島市立大学　社会連携センター　〒731-3194
TEL:082-830-1764　FAX:082-830-1555　広島市安佐南区大塚東三丁目４番１号
E-mail:office-shakai@m.hiroshima-cu.ac.jp　（情報科学部棟別館１F）